

組織的に重点目標の具体化を目指す学校評価

札幌市立澄川南小学校

I はじめに

学校改善に結び付いた学校評価

1 本校における学校評価のねらい

本校においては自らの教育活動や学校運営について組織的・継続的な改善を行っていくとともに、保護者や地域住民に対して説明責任を果たし、教育活動やその他の学校運営に対する理解と参画を得て学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めるために、学校評価の改善に取り組んだ。

2 昨年度までの学校評価をもとにした改善点

【その1】重点目標の具現化を推進

昨年度の重点目標は10の観点に焦点化して、子どもに10の力を育てることができたかどうか、具体策を設定して成果課題を明確化して取り組んできた。今年度は、重点目標をさらに焦点化した6つの観点を設定し、保護者には、今年度も子どもにこんな力を育てていきたいと澄川南のマニフェストとして公表し、実際に学年として経営案に6観点をどう具体化するのかを表記していくことにした。

【その2】学年経営交流会とリンクさせた評価システムの構築

評価のための評価にならないように、年間3回の学年経営交流会を学校評価の中に繰り返し、評価の方法を多様化させることにより、自然な流れで、評価システムを構築させようと考えた。

【その3】学校全体の組織とリンクさせた評価システムの構築

研究部、及び指導三部の年間の取組の中にも6観点に対して具体策を盛り込んで、月ごとの職員会議の中でも評価していくことにした。

重点目標の具現化
10観点～6観点へ

学年経営交流会と
リンク

研究・指導三部の
取組とのリンク

II 本校の学校評価のシステム

学校評価システム

1 自己評価の充実を図る組織体制

本校では、年間通しての重点目標（6観点）（PⅠ）⇒実施（DⅠ）⇒中間評価・改善・後期に向けて課題設定（CⅠ&PⅡ&AⅠ）⇒実施（DⅡ）⇒年度末評価（CⅡ）⇒改善（AⅡ）のPDCAPDCAのダブルサイクルで学校評価を改善し取り組んできた。

中間評価は、学年経営とリンクさせ、各学年の自己評価（年間通しての重点目標6観点の具体化）を基に、学校全体で検証し、成果や課題を共有し、更なる方策を共通理解して改善を進めている。

2月に実施する年度末評価（CⅡ）は、6月の学年経営交流会で確認（年間通しての重点目標6観点の具体化）、10月の学年経営交流会で確認（年間通しての重点6観点の具体化の成果課題・後期にむけての学校全体の課題）に基づいて、成果・今後の課題を明確にし、卒業式に向けて改善に取り組み（AⅡ）、次年度の教育課程の編成に反映させることをねらいにして取り組んでいる。

学校の自己評価に当たっては、教務主任、総務、学年代表、各部長で構成される教

中間評価

年度末評価

育課程委員会で「ねらい、内容、方法、日程、分析方法、公表する計画など」検討を加え、全職員に提案することになっている。

2 学校関係者評価の円滑な実施に向けた取組

学校関係者評価は、自己評価の客観性を高め、学校と地域住民・保護者・元学校教育関係者が学校運営の現状について共通理解を得ながら、教育活動や学校運営の改善を行うことを目的としている。

Ⅲ 学校評価の一年間の流れ

	自己評価			学校関係者評価
	学校（教職員）	児童	保護者	学校関係者評価委員会
4	学校経営方針・重点目標から具体化された6観点の確認 学校教育説明会（TV放送による）	2～5年学力テスト、2・5年知能テスト 6年全国学力・学習状況調査	学校教育説明会（TV放送） 参観懇談（今年度PTA活動）	学校評議員3名、PTA会長、ミニ児童会館館長各1名による評価委員会の立ち上げ
5	第27回運動会 指導三部での重点に向けた具体的取組	運動会の取り組み がんばりカード	懇談会（学年学級経営方針説明） 運動会参観	運動会参観・意見感想の交流、学校便り送付
6	第1回学年経営交流会 重点目標を具体化した6観点を学年としてどう実践するのか具体策を交流 運動会の反省（成果課題）子どもの育ち		参観懇談（運動会の反省、子どもの育ち）	
7	保護者アンケートを6観点到リンクさせて作成	終業式夏季休業生活がんばりカード	個人懇談（学力テスト結果の説明、個票配付）	学校便り送付
8	保護者アンケートの実施（懇談での聞き取り調査）	始業式夏季休業生活がんばりカード	参観懇談（通知表の見方の説明）	
9	前期通知表配付		PTA フェスティバル、保護者地域学校公開日（参観）	地域学校公開日参観・意見感想の交流 学校便り送付
10	第2回学年交流会（中間評価） 職員会議の中で、ブロックごとの交流の様子の報告、後期に向けて課題の確認 第27回学習発表会	学習発表会取組み がんばりカード 励ましカード交流 全学年体力テスト	学習発表会参観	学習発表会参観・意見感想の交流
11	保護者、児童アンケートを6観点到リンクさせて作成 学習発表会反省（成果課題）子どもの育ち		6年学力テスト結果改善策公表 参観懇談（学習発表会反省）	学校便り送付
12	学校評価各部、各特別委員会	児童アンケート実施回収 終業式冬季休業生活がんばりカード	保護者アンケート実施回収 個人懇談（後期の生活の様子）	学校便り送付
1	学校評価全体会	始業式冬季休業生活がんばりカード		学校関係者評価委員会開催のお知らせ郵送

2	第3回学年学級交流会（年度末評価） （学年末にむけ課題の解決に、改善実践）		学校関係者評価書公表 参観懇談（次年度PTA活動）	学校関係者評価委員会開催 学校関係者評価書公表、学校便り送付
3	後期通知表配付、学校教育報告会、学校便り、ホームページで公開 卒業式の反省(成果課題子どもの育ち)	学年末のまとめ 卒業式 修了式 春季休業	低高学年末懇談会（学校教育報告会）	

IV 学校評価の方法

1 自己評価

(1) 項目の設定

本校では、重点目標から具体化された6つの観点を設定している。

思いやりのある子…相手意識をもち、いろいろなことを自分の問題としてとらえる力を育てます。
挨拶や返事ができ、相手・場に応じた言葉遣いのできる力を育てます。

たくましく元気な子…いろいろな活動で、責任をもってやり遂げる力を育てます。
仲間とともに楽しく活動をつくったり、問題を解決したりする力を育てます。

進んで学習する子…コミュニケーション力を育て、学習の質を高めます。
進んで朝読書や家庭学習に取り組む力を育てます。

総花・網羅から評価項目の重点化へ

重点目標

外部アンケートの効率化を図る

(2) 効率的な外部アンケート等の実施

重点を焦点化した6つの観点をリンクさせて作成。

評価項目	学年評価 AB 割合	児童評価 AB 割合	保護者評価 AB 割合	分析
自分の問題としてとらえる力		221/280 78%	181/260 70%	相手への思いやり、挨拶については成果が見られる。言葉遣いでは日常の指導の充実が必要である。
挨拶 言葉遣い		248/278 89%	195/260 75%	
責任感・達成感		197/286 69%	189/260 73%	責任感・達成感については、様々な活動の中で、強く感じるようになってきている。
仲間づくり		255/284 90%	220/260 85%	
表現力・コミュニケーション力		244/284 86%	187/221 77%	表現力、家庭学習は、保護者や児童においても、もう一息と考えている。表現力の向上、指導については今後の課題である。
朝読書		198/281 70%	183/220 83%	
家庭学習		236/284 83%	186/220 85%	
		206/285 72%	166/259 64%	

(4) 改善策の検討

保護者、児童アンケートと、重点目標の項目をリンクさせたのは今年度が2年目だったが、三者の願いがよく読み取れる。さらに保護者の中間評価を設定することにより、保護者の願いや要望・改善策を後期に生かすことができたことである。この結果を十分吟味し、次年度の学校評価の取組に生かしていきたいと考える。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

学校評議員と PTA 会長、ミニ児童会館館長で構成されている。学校関係者評価委員会は、自己評価の内容・方法などについて説明をもとに、教育活動その他の学校運営の改善が適切に行われたかどうかを客観的に評価し公表する。

(2) 学校関係者評価を生かす取組

別紙資料参照。今年度は、学校関係者評価委員会の事前に学校関係者・自己評価書を配付し、評価書に添って話し合いを進め、まとめ、公表する。

コミュニケーション
ツールとしての学校
関係者評価

V 評価結果の公表

1 公表の方法

本校では、今年度、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・3月の低高のブロックごとの学年末懇談で学校教育報告会
- ・学校だより2月号、3月号
- ・学校ホームページ

2 公表の効果

上記の方法の公表により、保護者・地域の方々の学校の現状や教育活動の取組に対する理解が深まり、課題意識が共有され、ともに子どもを育てようとする意識が高まってきている。

公表方法の多様化

VI 成果と課題

1 成果

第一に重点目標の観点を10から6の観点到精選し、焦点化することにより、子どもを育てる目標が明確になり、手だてや成果課題がはっきり見えてきたことである。また保護者に対しても、学校の「教育活動マニフェスト」として、説明会、懇談会の前などのプリントにして配付し、学校だよりの配付等を通して公表することにより、保護者の理解と協力を得ることができたことである。

第二に評価のための評価にしないため、学年経営交流会を中間評価・年度末評価に繰り入れ、成果課題を交流することにより、重点6観点を年間通し、学年経営として意識して取り組むことができたことである。

2 課題

今年度の重点目標をさらに吟味して、次年度の重点目標の具体化を図ることができるよう改善する。学校評価の目標の明確化を図るため、どう学校として組織的・継続的な改善を図るか、どのように評価の公表・説明により適切に説明責任を果たし、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めるかが今後の課題である。

【参考文献】

- ・学校評価推進事業協議会資料(仙台会場・東京会場)

(様式2)

平成21年度

自己評価及び学校関係者評価書

平成22年3月 日

札幌市立澄川南小学校

1. 重点目標

「心豊かでたくましく自ら学び続ける子の育成」

求める子どもの姿： 思いやりのある子・たくましく元気な子・進んで学習し、生活に生かせる子

2. 本年度の重点

「見直す・つくる（育てる）・きょうどう（共同、協働、協同）で」を大切に
～よいかかわりあいを通して、心と頭と体が育つ1年に～

1. 「学校は楽しい」という気持ちをどの子ももてる学校づくりを進める。
2. 学習、生活、健康・安全について基礎・基本的な力が身につく学校づくりを進める。
3. 家庭や地域の教育力を活用し、安全で信頼される学校づくりを進める。
4. 新指導要領実施に向けての確実な移行措置を進める。

1. 自己評価結果

A 十分成果があがっている、B まあまあ成果があがっている、C あまり成果が上がっていない、D 成果が上がっていない

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点	・重点目標の内容は、学校や児童の実態から見て、適切であるか。				
	・重点目標の取組の過程をよく把握することができたか。				
	・重点目標を具体化し、バランスの取れた教育課程を編成することができたか。				
学校関係者評価者による意見					
学習指導	・コミュニケーション力を育て、学習の質を高めることができたか。				

進んで学習する子	・進んで朝読書や家庭学習に取り組む力を育てることができたか。				
	学校関係者評価者による意見				
生徒指導思いやりのある子・たくましく元気な子	・相手意識を持ち、いろいろなことを自分の問題としてとらえる力を育てることができたか。				
	・挨拶や返事ができ、相手・場に応じた言葉遣いができる力を育てることができたか。				
	・いろいろな活動で、責任をもってやり遂げる力を育てることができたか。				
	・仲間とともに、楽しく活動をつくったり、問題を解決したりする力を育てることができたか。				
学校関係者評価者による意見					